

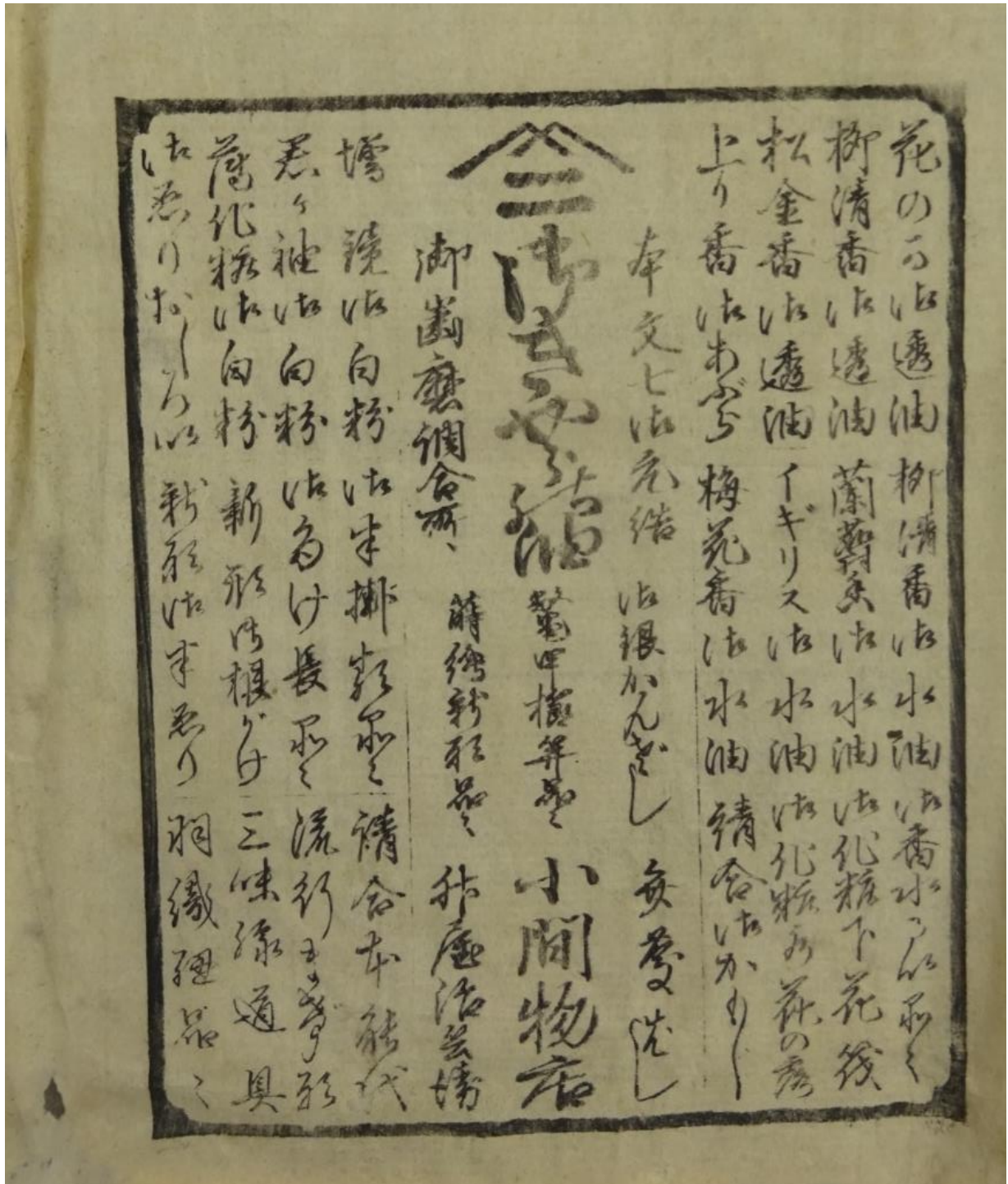
1文字か2文字だけで良いです。読める字を見つけてください。

「くずし字が読めるようになって、別にいいことなんてないと思う。」
そう思う気持ちは、わかります。一人だと、なかなか読めるようになりませんから。
でも、一言だけ言わせてください。

くずし字を、少しでも読めるようになると、楽しみが増えますよ!

ですから、時間があれば5分間で構いません。写真の中で読める字を見つけてください。

(解答は6ページです)



【初級者の方へ】

まずは、全体を眺めましょう。読めない文字があっても、止まってははいけません。

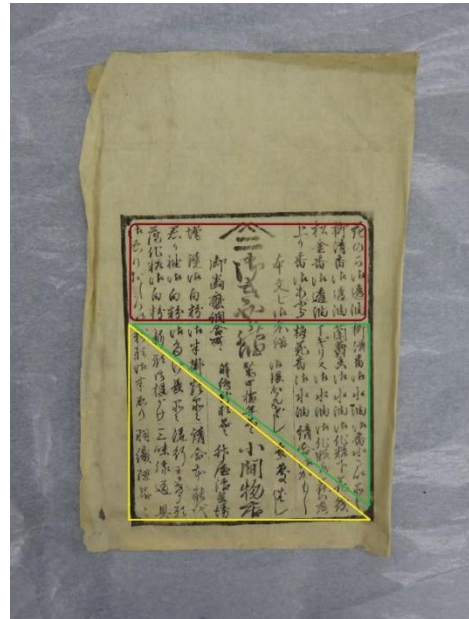
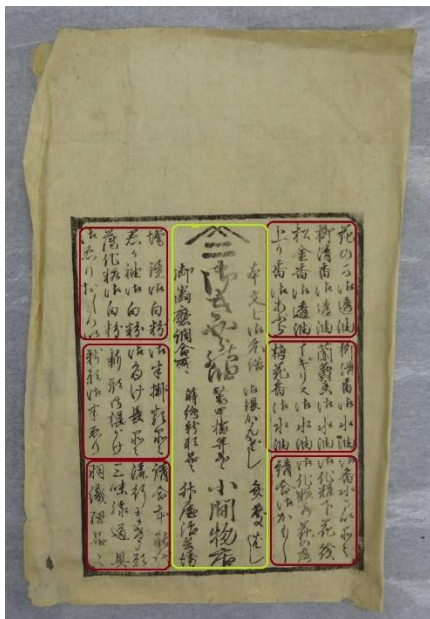
「Web で古文書講座」は、今回で2回目なので、すぐに答えはお示ししません。
まず、考えてほしいのは、資料全体の構成です。下の3問の答えを考えてください。

（解答は3ページです）

問1：この資料の全体の構成は、下のAとBのどちらに近いでしょう？

A 真ん中を挟んで左右6分割

B 上三分の一が一かたまり。下は三角形。



問2：この資料は、「^{こまもの}小間物」を売るお店で使われていたものです。

小間物を売るお店の資料に書かれていそうな物は、どれでしょう？

- A. そうめん
- B. ホンビノス貝
- C. おしろい

問3：この資料は、いつ頃印刷されたと思いますか？

- A. 戦国時代
- B. 江戸時代の初め、徳川家康が船橋に来た頃
- C. 江戸時代の後半より後

2 ページ目のクイズの答え

答1：Aです。これは、感覚的にわかった方が多いかも知れません。
Bだと、字が切れてしまいます。よく見ると、横にも細い線が見えます。

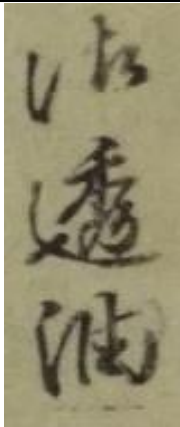
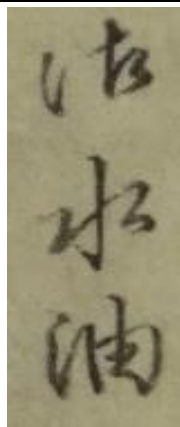
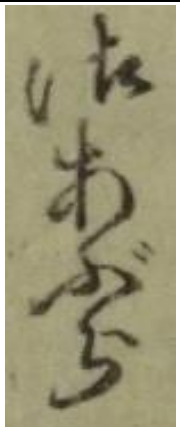
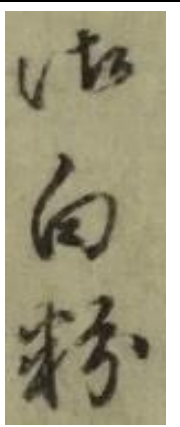
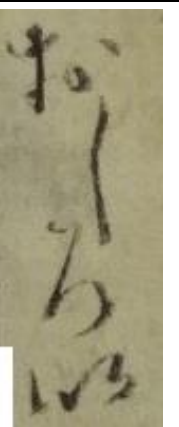
答2：Cです。
小間物とは、日常的に用いる「こまごまとしたもの」で、日用品・化粧品・装身具などが該当します。現代でも「小間物屋」はありますが、雑貨屋で取り扱う品のうち、比較的小さい品と考えれば良いでしょう。

答3：資料に明記されている訳ではありませんが、Cだと考えられます。
小間物屋の商品を買う人や買ってくれそうな人が増えた頃、「イギリス」という西洋の国名が、一部の知識人たちだけでなく、市井の人びともある程度知られるようになった頃の資料だと考えて良いでしょう。

資料の構成がわかったら…

さて、くずし字を読むことに苦手意識を持っている方でも、「書かれていそうなこと」がわかれば、いくつか読める字が増えるはずですよ。

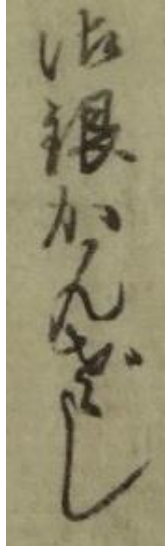
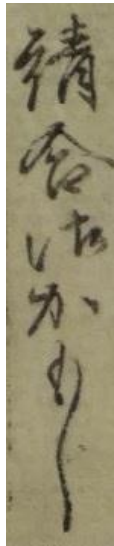
そこで、下の穴埋めクイズにチャレンジしてください。「Web で古文書講座」の1回目は、文字の読み解きでしたが、今回は、単語の読み解きです。いずれも、小間物屋で売られていた品物、つまり、装身具や化粧品類です。下の5つのうち、左の3つと右の2つが似た品物です。
(解答は6ページにあります)

くずし字					
平仮名					

【中級者の方へ】

中級者の方や上級者の方でも、そして、学芸員や研究者のような歴史の専門家でも、資料の全体像を把握することは、古文書を読み解くためには重要です。

次に、熟語の解読にチャレンジしましょう。少し難しいので、数文字だけ答えを先に書いています。下の□（1文字分）に当てはまる文字を考えてみましょう。簡単ならずし字ではありませんが、「小間物屋で売られていた品物」「おしゃれをするためのグッズ」「昔の雑貨屋にあった品物」って何だろう？と考えると、字を予想しやすくなるはずですよ。

くずし字					
漢字	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 調 合 所	御 銀 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 行 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 形	<input type="checkbox"/> 合 御 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	新 <input type="checkbox"/> 御 根 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

【上級者の方へ】

上級者の方には、くずし字を現代の文字に置き換えるだけでなく、資料（古文書）を読み解いて、時代や地域についての理解を深めていただけると、とても嬉しいです。

今回、上級者の方にチャレンジしていただきたいのは、①国語辞典や歴史用語辞典などで、資料に出てくる用語について調べること、②資料と関連する参考文献（論文など）を読んでもらうことの2つの作業です。

次のページからは、今回取り上げた資料の性格の説明と、郷土資料館の学芸員が①②の作業をした成果をお示しします。

資料の性格



今回取り上げた資料は、左の写真の棚に入っていたものです。3段ともに、棚に小間物屋の袋が敷かれていて、1段目には青い色で刷られたもの、2段目・3段目には黒い色で刷られた同じもの(今回のテキスト)が入っていました。

棚は、「紫檀したんかさりだな飾棚」という資料名で、船橋市が所蔵している清川家旧蔵資料のうち的一点です。清川家は、船橋で三代にわたって医業を営むとともに、椿貞雄などの画家と交際がありました。清川家が所蔵していた美術品は、「ふなばし生涯学習チャンネル」や「船橋市デジタルミュージアム」で紹介されているので、ご関心があれば、ぜひそれらをご覧ください。

学芸員の作業① 用語を調べると、資料のことがわかってくる。

- ・ 弁慶橋…橋の名前は、大工「弁慶小左衛門」が架けた橋という由緒に因むものです。江戸時代には、神田松枝町と岩本町との間にある藍染川の下流に架かっていたようですが、下水道工事による埋め立てのために撤去されたとのこと。その後、弁慶橋の廃材を利用して、江戸城外堀の、現在の紀尾井町から元赤坂一丁目のあたりに架橋されたそうです。
- ・ 透油…「すきあぶら」と読みます。鬢付油のことです。
- ・ 元結…「もっとい」「もとい」などと読みます。髪の髻（もとどり）を結び束ねる紐や糸の一種です。古くは、組紐または麻糸を用いたそうですが、江戸時代には、糊で固くひねったこよりで製したものをを用いたそうです。
- ・ かもじ…女性の髪に添えたり加えたりする髪のことで、「髪文字」と書くこともあるようです。郷土資料館の学芸員（男性）は、最初この熟語のくずし字を読みませんでした。
- ・ 歯磨き…江戸時代は、竜腦や丁子、白檀といった香りが加えられていたそうです。
- ・ 根がけ…郷土資料館で開催した古文書講座の受講生には、「根つけ」と読む人が何人もいましたが、濁音のように見えますし、意味を考えると「根がけ」の方が良いです。「根がけ」は、女性の髻（もとどり）の後ろにかける髪飾り、「根つけ」は、巾着・たばこ入れ・印籠などが帯から落ちないようにするために、紐の端につけるものです。

学芸員の作業② 関連する文献を読むと、資料を「味読」できる。

参考文献：塚本学「小間物屋の文化」

※ 塚本学『小さな歴史と大きな歴史』（吉川弘文館、平成5年〔1993〕）に収録。

※ 論考の初出は、昭和62年（1987）10月の『朝日ジャーナル』。

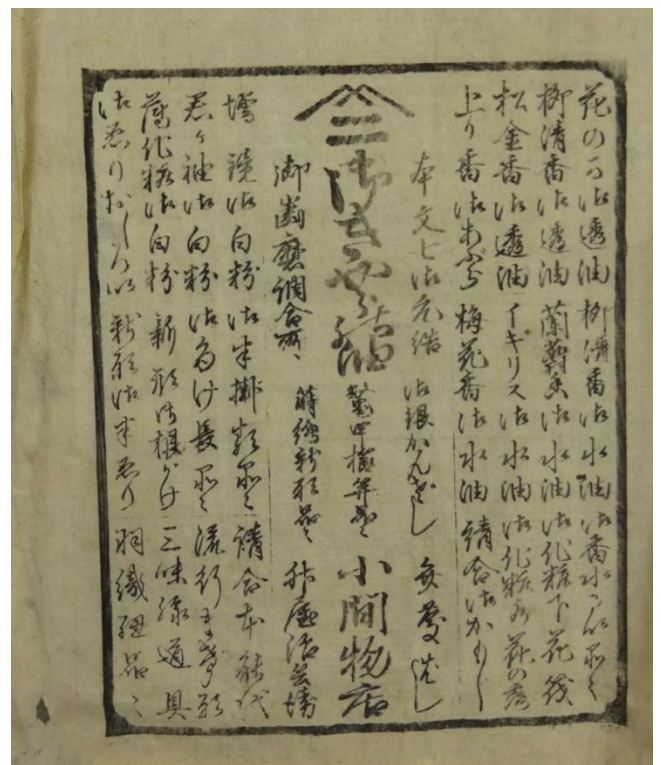
塚本学さんの論考によると…

- 江戸の小間物屋で売る商品の種類は、17～19世紀を通じて増えていった。
- 小間物屋の商品には、次のような変化があった。
 - ① 髪かざりの品が格段に増加した。
 - ② 18世紀に入ってから、かんざしとこうがいが分化し、18世紀半ば近くからは、白粉（おしろい）にまぜる程度だった紅を、くちびるに塗ることが流行した。
 - ③ 携帯用の袋物も、アクセサリーとして流行した。
- 江戸の戯作者には、化粧品・装身具類の作者が多かった。例えば、以下の4人がいる。
 - ① 「おしろいのよくのる（はげぬ）薬」を自家製で売り出した式亭三馬
 - ② 新作夏向きたばこ・白牡丹（月宮美人香）を売り出した山東京伝
 - ③ 自家製歯磨きを売り出した為永春水
 - ④ 櫛やたばこ入れを売った平賀源内

式亭三馬たちは、自作の戯作の要所に商品の引札（広告）や景物を書いていたそうです。書籍やインターネット上の画像で彼らの作品を見て、商品を探してみたくありませんか？

最後に、1ページ目の写真の字をお示しします。穴埋めクイズに関係する部分を、赤い太字で示しています。これからも、古文書の学習を楽しんでくださいね！

花のか御透油	柳清香御水油	御香水るい品々
柳清香御透油	蘭紫カ香御水油	御化粧下花筏
松金香御透油	イギリス御水油	御化粧水花の露
上り香御あぶら	梅花香御水油	請合御かもじ
(ヤマニ)	本文七御元結	御銀かんざし
御きやらの油	御歯磨調合所	御歯磨調合所
増鏡御白粉	御半掛類品々	請合本の代
君が袖御白粉	御たけ長品々	流行まげ形
薄化粧御白粉	新形御根がけ	三味線道具
御ゑりおしろい	新形御半ゑり	羽織紐品々
	鼈甲櫛筭品々	
	小間物店	
	升屋治兵衛	



- ※ 読みに自信がない字には、「カ」（〇〇ではないか？）と書いています。
- ※ 「Web で古文書講座」や資料の内容に関する質問・感想があれば、郷土資料館にお寄せください。令和2年度中に、「ふなばし生涯学習チャンネル」で、フォローアップ動画を配信する予定です。